

V 野 菜

1. たまねぎ

- (1) 収多郎（系統名 北見交39号）2006年
登録番号：（北海道）たまねぎ北海道交第9号
（種苗法）第17103号

セールスポイント

極早生で、8月から出荷可能な辛味が少ない良食味の
大球・多収品種であり、変形・分球等の規格外球発生率
が低い。

来歴 本品種は、収量性に優れた北海道向けの極早生品
種の育成を目標として、北見農業試験場がホクレン農業
総合研究所と共同で育成した細胞質雄性不稔系統「BP
R93509-01A」を種子親とし、(株)サカタのタネが育成し
た花粉親系統「NS」を交配して得られた単交配一代雑
種である。2002年に「SCX09」、2003年からは「北見交
39号」の系統名で各種試験を行い、2006年に優良品種
（普及奨励事項）となった。

特性概要

1. 生育盛期における生葉数は、「北早生3号」より多
く、「北はやて2号」とほぼ同程度である。草丈は、
「北早生3号」よりやや長く、「北はやて2号」よりや
や短い。葉鞘径は、「北早生3号」より太く、「北はや
て2号」と同程度である。草姿は開張し、葉色は淡い。
葉折れ、葉先枯れはやや多い。
2. 肥大期は「北早生3号」より遅く、「北はやて2号」

- 参照** 1) 北海道農政部編、平成18年普及奨励ならびに指導参考事項、16-18（2006）
2) 柳田大介等、北海道立総合研究機構農試集報. 96, 15-25（2012）。

- (2) クエルリッチ（系統名 月交22号）2006年
登録番号：（北海道）たまねぎ北海道交第10号
（農水省）たまねぎ農林交9号
（種苗法）第17105号

セールスポイント

既存品種よりもケルセチンを平均で25%多く含む、春
まき栽培に適した高貯蔵性赤タマネギF1品種である。

来歴 本品種は、(株)日本農林社が育成した種子親系統雄
「NOR-1A」と、北農研センターが海外導入品種

よりやや遅い。倒伏期は「北早生3号」よりやや遅く、
「北はやて2号」と同程度である。

3. 乾腐病抵抗性は「北早生3号」に優り、「北はやて
2号」にやや優る。
4. 春まき露地移植栽培における抽台発生は認められな
い。
5. 規格内収量は「北早生3号」、「北はやて2号」に優
る。規格内収量構成のうち、2LおよびL大比率が全
体の8割以上を占める。規格内率は「北早生3号」に
優り、「北はやて2号」と同等である。平均一球重は
「北早生3号」、「北はやて2号」に優る。
6. 球の外観はやや扁平の地球型である。「北早生3号」、
「北はやて2号」と比較して、ピルビン酸生成量は同
等であり、Brixは同等からやや低く、乾物率は低い。
7. 収穫年10月末までの健全球数率は、「北早生3号」
と同程度で、「北はやて2号」にやや劣る。

栽培適地と奨励態度

全道のたまねぎ栽培地帯に適する。乾腐病抵抗性は
「北はやて2号」よりやや優るが、激発ほ場での栽培は
避ける。裂皮等による球品質低下を防ぐため、適期の根
切りおよび枯葉揃い後の速やかな収穫に努める。本品種
は根張りが強いいため、根切りが不十分な場合には切断さ
れなかった根が土中に残り、球の二次肥大や枯葉時期の
遅延につながるおそれがある。

「Southport Red Globe」から選抜育成した花粉親系統
「SRG-12」とを交配して得られた単交配一代雑種であ
る。2001年から「月交24号」の系統名で各種試験を行い、
2006年に優良品種（普及推進事項）となった。

特性概要

1. 草勢は、「スーパー北もみじ」と同等でやや強く、
葉色は濃い。生理的な葉先の枯れは他の品種よりも少
ない。
2. 倒伏期は8月4日で、中晩生品種に分類される。
3. 規格内収量は546kg/aで「スーパー北もみじ」よ

り約2割少ない。規格内率は86%、1球重は約200gである。

4. 外皮は紫色で色斑はない。球形指数は93で、外観は球～やや縦長の球形（紡錘）となる。りん片葉は薄く枚数の多い葉数型たまねぎで、Brix値は他の品種に比べ高い。

参照 1) 北海道農政部編, 平成18年普及奨励ならびに指導参考事項, 60-61 (2006)
2) 室崇人等, 北海道農試研報. 192, 25-32 (2010).

(3) 早次郎 (系統名 北見交38号) 2007年

登録番号: (北海道) たまねぎ北海道交第11号
(種苗法) 第18366号

セールスポイント

8月上旬から出荷可能な極早生品種であり、市場評価が高い濃い外皮色を有する。難防除土壌病害である乾腐病に強い抵抗性を示す。

来歴 本品種は、8月上旬からの早期出荷に対応できる北海道向け極早生品種の育成を目標として、北見農業試験場がホクレン農業総合研究所と共同で育成した細胞質雄性不稔系統「BPR93511-03-01A」を種子親とし、(株)サカタのタネが育成した花粉親系統「NS」を交配して得られた単交配一代雑種である。2002年に「SCX08」、2003年からは「北見交38号」の系統名で各種試験を行い、2007年に優良品種（普及奨励事項）となった。

特性概要

1. 生育盛期における生葉数は、「北早生3号」よりやや多く、「北はやて2号」と同程度である。草丈は、「北早生3号」より長く「北はやて2号」と同程度である。葉鞘径は、「北早生3号」より太く「北はやて2号」と同程度である。葉色は淡く、草姿は開張し、葉先枯れの発生はやや多い。
2. 肥大期は、「北早生3号」と同程度で「北はやて2号」よりやや早い。倒伏期は、「北早生3号」と同程度から

参照 1) 北海道農政部編, 平成19年普及奨励ならびに指導参考事項, 18-20 (2007)
2) 柳田大介等, 北海道立総合研究機構農試集報. 96, 15-25 (2012).

(4) えぞまる (系統名 HT46) 2009年

登録番号: (北海道) たまねぎ北海道交第12号
(種苗法) 第21043号

5. 6ヵ月貯蔵後の健全率は、「スーパー北もみじ」と同程度に高く、長期貯蔵性を有している

栽培適地と栽培態度

全道のたまねぎ栽培地帯に適する。栽培地域や気象条件によっては長球が多発することに留意する。

やや早く、「北はやて2号」より早い。

3. 乾腐病抵抗性は、「北早生3号」、「北はやて2号」に優り、「スーパー北もみじ」にやや優る。
4. 予備検定試験を含めた過去5ヵ年の早期は種作型移植栽培による生産力検定試験において、ごく僅かに抽台株発生は認められたが、他年次および他育成場における抽台発生は認められていない。
5. 規格内収量並びに規格内率は、「北早生3号」に優り、「北はやて2号」にやや優る。平均一球重は、「北早生3号」に優り「北はやて2号」と同程度である。規格外球の発生は少ない。
6. 球形状は地球型である。外皮色は、「北早生3号」よりやや濃く、「北はやて2号」と同程度である。ピルビン酸生成量は、「北早生3号」と同程度で「北はやて2号」より高い。乾物率とBrixは、「北早生3号」、「北はやて2号」と同程度である。
7. 収穫年10月末までの健全率数は、「北早生3号」に優り「北はやて2号」と同程度である。

栽培適地と奨励態度

全道のたまねぎ栽培地帯に適する。乾腐病抵抗性は、「北早生3号」、「北はやて2号」より優るが、激発ほ場での栽培は避ける。本品種は根張りが強いいため、根切り作業が不十分な場合には切断されなかった根が土中に残り、球の二次肥大や枯葉遅延につながるおそれがあるため、根切りには十分に留意する。

セールスポイント

加工用途向けの大球・多収品種であり、貯蔵性に優れる。難土壌病害である紅色根腐病に強い抵抗性を示す。

来歴 本品種は、大球・多収を目的として育成した種子親系統「PR94504-01-03A」と花粉親系統「PR94517-01-01m1M」を交配して得られた北見農業試験場とホクレン農業総合研究所との共同研究による単交配一代雑種である。2003年に「PRCX273」、2004年に「北見交46号」の系統名で各種試験を行い、2009年に系統名を「HT46」に変更の後、同年に優良品種（普及奨励事項）となった。

特性概要

1. 生育盛期の生葉数は、「スーパー北もみじ」よりやや少なく、「純心」と同程度である。草丈は、「スーパー北もみじ」より長く、「純心」よりやや長い。葉鞘径は同程度である。葉色並びに草姿は、「スーパー北もみじ」と同程度である。
 2. 倒伏期は、「スーパー北もみじ」よりやや遅く、「純心」よりやや早い。
 3. 乾腐病抵抗性は、「スーパー北もみじ」に劣る。
 4. 紅色根腐病激発ほ場における被害程度が小さく、本
- 参照 1) 北海道農政部編, 平成21年普及奨励ならびに指導参考事項, 12-14 (2009)

- (5) ゆめせんか (系統名 北見交54号) 2012年
登録番号: (北海道) たまねぎ北海道交第13号
(種苗法) 第 号

セールスポイント

乾物率とBrixが高く、加熱時間の短縮や製品完成時の歩留率向上が可能である。冷凍製品を解凍した際の離水率が低い、焦げ色が緩和される等の優れた加熱加工適性を持つ。

来歴 本品種は、加熱加工用途に適した品種の育成を目的として、細胞質雄性不稔系統「W447A」を種子親とし、北見農試育成の高乾物率・高Brix系統「北見48号(AWW86261-01M1m1M4y)」を花粉親として得られた単交配一代雑種である。2007年に「TEST0605」、2008年からは「北見交54号」の系統名で各種試験を行い、2012年に優良品種（普及推進事項）となった。

特性概要

1. 地上部生育盛期における生葉数は、「スーパー北もみじ」より少ない。草丈と葉鞘径は、「スーパー北も

参照 1) 北海道農政部編, 平成24年普及奨励ならびに指導参考事項, 41-43 (2012)

病害に対して強い抵抗性を持つ。

5. 耐抽台性は、「スーパー北もみじ」ほど強くはないが、「純心」より発生率は低い。
6. 総収量および平均一球重は、「スーパー北もみじ」に優り、「純心」にやや劣る。規格内収量は「スーパー北もみじ」に優り、「純心」にやや優る。収量構成において、2 L以上とL大の合計が全体の90%を占める。
7. 球形状は地球型である。球外観品質は、青果用品種「スーパー北もみじ」にやや劣り、加工用品種「純心」にやや優る。乾物率、Brixは「スーパー北もみじ」より低く、「純心」よりやや高い。貯蔵性は「スーパー北もみじ」にやや劣り、「純心」に優る。

栽培適地と奨励態度

全道のたまねぎ栽培地帯に適するが、乾腐病抵抗性は「スーパー北もみじ」より劣るので、本病害が多発するほ場での栽培は避ける。耐抽台性は「スーパー北もみじ」ほど強くないため、早期は種や早期定植は避ける。

みじ」と同程度である。草色はやや濃く、草姿は、「スーパー北もみじ」と同程度である。

2. 倒伏期は、「スーパー北もみじ」より1日遅い。
3. 耐抽台性は「スーパー北もみじ」に劣る。
4. 育成場における規格内収量、総収量、平均一球重並びに規格内率は、「スーパー北もみじ」と同程度である。
5. 貯蔵性は「スーパー北もみじ」にやや劣る。
6. 乾腐病抵抗性は、「スーパー北もみじ」と同程度である。
7. 球形状はやや甲高の地球型で外皮色はやや黄色味が強い。乾物率とBrixは「スーパー北もみじ」より高い。
8. 加熱加工業者の評価では、加熱処理の仕上がり時間の短縮が可能で、製品完成時のBrixは高い。加熱加工製品の凍結解凍後の離水は少ない。加熱加工した際の製品歩留は高い。製品の焦げ色の緩和が可能である。

栽培適地と栽培態度

全道のたまねぎ栽培地帯に適する。耐抽台性はやや低いため、抽台発生懸念地域での栽培や早期定植は避ける。

2. いちご

- (1) **きたのさち**（系統名 道南27号）2006年
登録番号：（北海道）いちご北海道第5号
（種苗法）第18013号

セールスポイント

果実品質（外観，食味，日持ち性）に優れた，無加温半促成栽培向け品種である。網走地域に適する。

来歴 網走管内のいちごの生産振興を図るため，「宝交早生」並に多収で，「けんたろう」と同等程度に高品質な無加温半促成栽培用品種の育成を目標に，1994年に「きたえくぼ」を種子親に「久留米52号」（のちの「さちのか」）を花粉親として交配して栄養系選抜法により育成された。1999年より「道南27号」の系統名で各種試験を行い，2006年に優良品種となった。

特性概要

- 「けんたろう」に比べ葉数が多い。また，葉柄および果房が長く収穫作業の支障となることがある。収穫終期に生理的な葉の枯れ上がりが見られることがある

が，実用的な問題はない。

- 早晩性は「けんたろう」や「宝交早生」よりやや遅く「きたえくぼ」より早い。子苗生産力は「けんたろう」と同程度である。
- 規格内収量は「けんたろう」より多い。
- うどんこ病耐病性は「けんたろう」と同等程度に強い。萎凋病耐病性は「けんたろう」とほぼ同程度であるが，萎黄病および灰色かび病耐病性は「けんたろう」より弱い。
- 栽培地により果実品質に差を生じやすい。普及対象地域の北見市では，「けんたろう」と比較して果実中心空洞はやや大きい，外部品質がやや優れ，果実がやや硬く，日持ち性にやや優れ，糖度がやや高く，食味は同等かやや良で，市場での評価が高い。

栽培適地と奨励態度

網走管内の無加温半促成栽培に適する。萎凋病と萎黄病に対する耐病性が劣るので，耕種的防除や土壌消毒に努めるとともに，灰色かび病耐病性が劣るので，適期防除を心がける。

試験所	品種名	開花期 （月日）	収穫始期 （月日）	葉数 （枚/株）	規格内果			規格内率 （%）	糖度 （Brix）	日持ち性	市場性	試験年次
					収量 （kg/a）	同左比 （%）	平均一果重 （g）					
道南農試	きたのさち	4.13	5.21	41.0	345.4	126	14.3	77.0	9.1	3.8	2.3	2000～2005
	けんたろう	4.12	5.15	33.0	274.5	100	13.6	76.5	9.7	4.2	3.0	
	きたえくぼ	4.18	5.23	26.7	207.9	76	12.3	52.1	9.3	3.2	—	
	宝交早生	4.14	5.17	43.4	309.1	113	13.8	68.0	8.3	1.2	—	
北見市	きたのさち	5.2	6.1	—	127.7	159	11.4	65.7	9.6	4.2	4.0	2000～2004
	けんたろう	4.29	5.28	—	80.4	100	10.8	61.8	9.4	3.0	3.0	
	きたえくぼ	5.2	6.2	—	100.0	124	10.2	54.0	9.9	4.2	—	
	宝交早生	4.29	5.27	—	127.7	159	11.1	60.1	9.1	2.0	—	

注 1）葉数は，2000～2002年における収穫始期の平均値。

2）日持ち性は，5（良）～1（不良）。

3）市場性は，「けんたろう」を3とした場合の「きたのさち」の評価。5（良）～1（不良）。

4）市場性評価（2004年）は，道南農試産果実を用い，函館中央卸売市場のいちご仲卸人20名で行った。

5）市場性評価（2005年）は，訓子府町産果実を用い，北見市卸売市場の関係者35名で行った。

参照 1）北海道農政部編，平成18年普及奨励ならびに指導参考事項，62-64（2006）。

- (2) **なつじろう**（系統名 道南29号）2007年
登録番号：（北海道）いちご北海道第6号
（種苗法）第19204号

セールスポイント

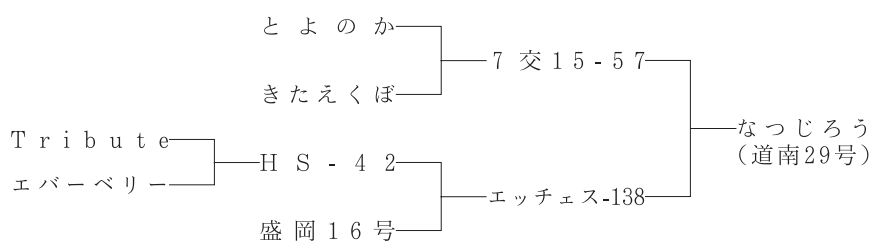
高設栽培において多収で，果実品質（外観，食味，日

持ち性）に優れた，雨よけ夏秋どり栽培向けの品種である。

来歴 本品種は，高設栽培向け高品質・多収を育種目標に2001年に道南農業試験場育成の「7交15-57」を種子親に，北海三共株式会社（現，ホクサン）育成の「エッ

チェス-138」を花粉親にして交配し、栄養系選抜法により育成された。2004年より「道南29号」の系統名で各

種試験を行い、2007年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 収穫始期の草丈は「エッチェス-138」と比べてやや低く、葉数および芽数はやや少ない。草姿は中間性であり、草勢はやや強い。
2. 四季成り性を有し、栽培期間を通して安定して出蕾する。生理障害果の一種である種子浮き果の発生率は「エッチェス-138」より低く、高設栽培における上物収量は多い。
3. うどんこ病抵抗性は「エッチェス-138」よりやや弱く、特に成り疲れ症状を呈すると病果の発生が多くなる。「エッチェス-138」と比べて萎黄病に対する抵抗性は弱く、萎凋病には同程度、疫病にはやや強い。「エッチェス-138」は黒斑病に罹病性であるが、「なっじろう」は抵抗性を有する。
4. 果形はやや長円錐形である。果皮色は鮮赤色で、光

沢は「エッチェス-138」と同等である。糖度はやや低いが、酸度も低いため糖酸比がやや高く、食味はやや良い。果実の中心空洞は「エッチェス-138」よりやや大きいものの、果実硬度が高く、日持ち性は供試した品種の中で最も優れており業務用に適している。

栽培適地と奨励態度

全道のいちご栽培地域に適し、適応作型は雨よけ夏秋どり栽培である。高設栽培で能力を発揮する品種であるが、土耕栽培でも利用可能である。但し、萎黄病に対する抵抗性が劣るので、無病苗の確保や土壌消毒に努める必要がある。また、着果数が多い品種であることから、着果負担に起因する成り疲れを防ぐために芽数および果房数調整作業を適切に行う。

品 種 名	収 量 性				果 実 品 質 特 性								試験年次
	上物収量 (kg/a)	同左比 (%)	上物一果重 (g)	種子浮き果率 (%)	果 形	糖 度 (a) (Brix)	酸 度 (b) (%)	糖酸比 (a/b)	食 味	日 持 ち 性 (日)	果実硬度 (g/φ3mm)		
											果皮	果肉	
なっじろう	206	115	10.7	7.1	やや長円錐	8.9	0.75	12.9	3.5	7.5	156	156	
エッチェス-138	179	100	10.1	10.1	円錐	9.1	0.80	12.1	2.9	6.1	152	147	
カレイニャ	146	83	10.8	8.8	円錐	9.7	0.64	17.1	3.7	6.0	123	106	
ペチカ	144	80	11.2	12.2	やや長円錐	9.8	0.60	17.5	3.6	5.8	123	100	
きみのひとみ	208	116	11.4	7.0	やや長円錐	9.3	0.77	17.8	3.7	4.4	97	91	
エラシ	92	44	10.3	33.3	卵円錐	9.4	0.71	15.6	2.9	4.8	124	—	

- 注 1) 試験は5月定植・7～11月収穫の作型で実施した。
 2) 高設栽培における給液希釈倍率は3,000倍（EC値で0.4mS/cm）とした。但し、花房養成期のみ2,500倍とした。
 3) 上物果は7g以上の秀品を指す。
 4) 食味は収穫期間中に4～5回にわたり5段階で評価し、その平均値を示した。5（良）～3（標準品種並）～1（不良）。
 5) 日持ち性および果実硬度は、毎年9月に室温で評価した。
 6) 日持ち性は業務用に利用可能な状態であった日数の平均値を示した。

参照 1) 北海道農政部編，平成19年普及奨励ならびに指導参考事項，21-23（2007）。

3. メロン

<実とり用>

- (1) **FG14** (系統名 空知交14号) 2006年
登録番号：(北海道)メロン北海道交第3号
(種苗法)第17186号

セールスポイント

うどんこ病耐病性を有するため「G-08」より農薬の散布回数を減らすことが可能である。ネット形質がやや優れる。肉質がやや優れ、ウリ科特有の青臭みも少ないため食味が良い。

来歴 現在の緑肉主力品種である「G-08」と同等以上の果実品質および収量性を有し、「G-08」よりうどんこ病耐病性が優れることを育種目標とした。花・野菜技術センターにおいて1998年に育成した固定系統「HM-G52」を種子親、遺伝資源として導入した固定系統「Dkg」を花粉親として2002年に最初のF1交配を行った。2002、2003年に「02X-1」の系統名で生産力検定予備試験に供試した。平成2004年より「空知交14号」の系統名を付して、生産力検定試験および道内各産地における地域適応性検定試験等を実施し、2006年に優良品種に認定された。

特性概要

- 「G-08」に比べ、つる長はやや長いが葉色はやや淡く、葉身長および葉柄長はやや短い。総合的に判断して草勢は同等である。
- 両性花着生率は「G-08」と同等である。着果率は年次によってやや変動があるがほぼ同等である。「G-08」に対し両性花開花始は2日程度早く、成熟日数も

2日程度短いため収穫日は4～5日早い。

- 果形はやや長玉であるが「G-08」と同等の果径比(縦径/横径)である。果皮色は濃緑～淡緑である。ネットの密度、太さは同等であるが、盛上りはやや優れる。結果枝はやや細い。「G-08」と同様に成熟に伴う果皮色の変化や離層の形成は認められないが、二次ネットの形成がやや明瞭であるため収穫判定難易はやや易である。
- 糖度はやや劣る。しかし、肉質がやや優れ、「G-08」と異なりウリ科特有の青臭みが少ないことから食味はやや優れる傾向である。果肉色は淡緑～白緑で、やや優れる。適食時期は収穫後4～6日目であり、日持ち性は無加温半促成では同等、ハウス抑制では劣る。
- 平均一果重は同等である。収穫率率、良果率は同等である。良果収量は同等である。
- つる割病についてはレース0およびレース2に抵抗性を有するが、レース1,2yには抵抗性はない。うどんこ病については「G-08」と比較して強い耐病性を有する。

栽培適地と奨励態度

全道のメロン栽培地域に適する。生育期全般にわたってハウス内を高温管理した場合、低糖度果や裂果の発生が助長されるため栽培管理に注意する。特にハウス抑制栽培などハウス内が高温になりやすい作型での栽培は避ける。「FG14」はネット形質や食味が良いことに加えて、うどんこ病耐病性を示すため「G08」より農薬の散布回数を減らした栽培が可能である。このことから減農薬メロン栽培を目指す産地の維持発展に大きく貢献できる品種と考えられる。

場所名	作型	品種名	成熟日数(日)	規格内収量(kg/a)	同左標準対比(%)	規格内率(%)	平均一果重(kg)	ネット密度	糖度(Brix)	うどんこ病耐病性	試験年次
花・野菜センター	無加温半促成	FG-14	57	369	105	95.2	2.13	4.9	14.5	強	2004～2005
		G-08	59	351	100	98.5	2.01	5.0	15.8	弱	

注 1) ネット密度は1(粗)～5(密)で評価。

- 参照** 1) 北海道農政部編, 平成18年普及奨励ならびに指導参考事項, 65-67 (2006)
2) 八木亮治 等, 北海道立農試集報. 94, 31-40 (2009).

- (2) **ゆめてまり** (系統名 空知交16号) 2008年
登録番号：(北海道)メロン北海道交第4号
(種苗法)第19681号

セールスポイント

ネットが非常に盛上るため、アールスメロンに近い果実外観品質となる。赤肉臭が少なく、クセのない味である。草姿がコンパクトで整枝作業が容易である。

来歴 現在の道内主力赤肉品種である「ルピアレッド」より果実外観品質が優れ、草姿のコンパクト性及びうどんこ病耐病性を有することを育種目標とした。花・野菜技術センターと株式会社大学農園が共同で育成した固定系統「DHM-R2」を種子親とし、大学農園が育成した固定系統「Dkg」を花粉親として2004年に最初のF1交配を行った。2004年に「04RX-1」の系統名で生産力検定予備試験に供試した。2005年より「空知交16号」の系統名を付して、生産力検定試験および道内各産地において地域適応性検定試験等を実施し、2008年に優良品種に認定された。

特性概要

1. つる長、葉身長及び葉柄長は「ルピアレッド」とほぼ同等で、草姿のコンパクト性を有しており、整枝作業が行いやすい。草勢は同等である。
2. 両性花着生率及び着果率は「ルピアレッド」と同等である。開花始及び成熟日数は同等であるため、収穫日も同等である。
3. 果形はほぼ正球で、果皮色は緑～淡緑である。ネットの太さ及び盛上りは「ルピアレッド」より優れる。「ルピアレッド」と同様に成熟に伴う果皮色の変化や離層の形成が無い。収穫は二次ネットの形成及び成熟

日数で判断するが、「ルピアレッド」より裂果しやすい特性を有していることから収穫判定難易はやや難である。

4. 糖度は「ルピアレッド」と同等である。果肉はやや硬いが、赤肉臭が少なく、クセのない味である。日持ち性はやや優れる。
5. 平均一果重は「ルピアレッド」よりやや重い。裂果の発生がやや多い傾向であるため、収量性は同等である。
6. つる割病についてはレース0及びレース2に抵抗性があるが、レース1,2yに抵抗性は無い。うどんこ病については「ルピアレッド」と同様に耐病性を有する。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は全道のメロン栽培地域である。適応作型は無加温半促成作型で、ハウス抑制作型には適さない。収穫直前まで土壌水分が多い場合、あるいは過剰に果皮が硬化する管理（ハウス内の低温や乾燥）を行った場合は裂果が発生する恐れがあるため、栽培管理に注意する。高級メロンとされるアールスメロンに近い外観品質を有し、食味も良好であるため高価格が期待できる。このことから「ルピアレッド」との差別化を目指す産地の維持発展に大きく貢献できる品種と考えられる。

場所名	作型	品種名	成熟日数(日)	規格内収量(kg/a)	同左標準対比(%)	規格内率(%)	平均一果重(kg)	ネット盛上り	ネット太さ	糖度(Brix)	試験年次
花・野菜センター	無加温半促成	ゆめてまり	51	310	97	98	1.90	4.2	3.9	14.1	2005～2007
		ルピアレッド	50	319	100	100	1.82	1.9	2.9	14.1	

注 1) ネットは1(低, 細)～5(高, 太)で評価。

参照 1) 北海道農政部編, 平成20年普及奨励ならびに指導参考事項, 39-41 (2008).

- (3) **北かれん** (系統名 空知交20号) 2011年
登録番号: (北海道)メロン北海道交第5号
(種苗法)第22170号

セールスポイント

えそ斑点病に抵抗性を有する国内初の赤肉メロンである。また、ワタアブラムシ、うどんこ病、つる割病など主要な病害虫にも抵抗性がある。香りが良く食味も良好である。

来歴 えそ斑点病やワタアブラムシなど主要な病害虫に抵抗性を有し、果実品質は現在の道内主力赤肉品種の「ルピアレッド」と同等以上で、草姿がコンパクトであることを育種目標とした。花・野菜技術センターと株式

会社大学農園が共同で育成した固定系統「DHM-R3」を種子親とし、同じく共同で育成した固定系統「DHM-R4」を花粉親として2008年に最初のF1交配を行った。2008年に「08RXc-10」の系統名で組合せ能力試験に供試した。その結果、特性が非常に優れていたことから2009年より「空知交20号」の系統名を付して、生産力検定試験、病害虫抵抗性試験、特性検定試験ならびに道内各産地において地域適応性検定試験を実施し、2011年に優良品種に認定された。

特性概要

1. つる長、節間長および葉柄長は「ルピアレッド」と同等で、草姿のコンパクト性を有しており、整枝作業が行いやすい。草勢は、着果期ではやや旺盛で、収穫

期では同等である。

2. 両性花着生率および着果率は「ルピアレッド」と同等で、着果性は良好である。開花始および成熟日数は同等であるため、収穫日は変わらない。
3. 果形はほぼ正球である。果梗部に離層は形成されるが、結果枝の離脱は認められない。果皮色は成熟にともない緑からやや黄色味を帯びたクリームへと変化する。ネットは「ルピアレッド」より盛上りが優れ、バランス良く形成される。花痕径はやや大きい。
4. 糖度は「ルピアレッド」と同等からやや高い。果肉色は赤橙～橙である。赤肉臭が少なく、香りはやや優れる。肉質は硬さがやや硬く、繊維もやや多い。食味は同等である。日持ち性はやや優れる。
5. 平均一果重は「ルピアレッド」と同等で、収量性も同等である。
6. えそ斑点病に抵抗性を有する。ワタアブラムシに抵

抗性を有する。つる割病についてはレース0, レース2に抵抗性であるが、レース1, レース1,2yには罹病性である。うどんこ病についてはレース1に抵抗性で、レースN2に耐病性で、レース5には罹病性である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は全道のメロン栽培地域である。適応作型は無加温半促成作型で、ハウス抑制作型には適さない。収穫適期の判断基準は果梗部に離層が形成され始めたときか、二次ネットの形成が赤道部と花痕部の間に達したときとするが、果実表面が25%程度黄化した場合は、試し切り等で内部品質（糖度等）を確認したうえで収穫する。えそ斑点病とワタアブラムシに抵抗性を持つ国内初の赤肉メロンである。このため、えそ斑点病発生圃場でも接ぎ木や土壌消毒をしなくても作付が可能であり、ワタアブラムシの防除回数も削減できる。

場所名	作型	品種名	成熟日数(日)	規格内収量(kg/a)	同左標準対比(%)	規格内率(%)	平均一果重(kg)	ネット盛上り	糖度(Brix)	えそ斑点病発病株率(%)	試験年次
花・野菜センター	無加温半促成	北かれん ルピアレッド	51	319	92	95	1.81	3.9	15.0	0	2009～2010
			50	349	100	99	1.95	1.6	14.6	100	

注 1) ネット盛上りは1(低)～5(高)で評価。
2) えそ斑点病発病株率は幼苗検定による結果。

参照 1) 北海道農政部編, 平成23年普及奨励ならびに指導参考事項, 8-11 (2011).

<台木>

- (1) どうだい4号(系統名 空知台交4号)2005年
登録番号:(北海道)台木類(メロン)北海道交第4号
(種苗法)第15779号

セールスポイント

日本初のえそ斑点病およびつる割病(レース1,2y)抵抗性台木品種である。つる割病レース0, レース2にも抵抗性を有し、接ぎ木作業性や果実肥大性が良好で台木特性も優れる。

来歴 土壌伝染性病害であるえそ斑点病およびつる割病(レース1,2y)(以下, レース1,2y)に複合抵抗性を有し、接ぎ木作業性などの台木特性が優れていることを育種目標とした。花・野菜技術センターにおいて育成した両病害抵抗性固定系統「HM-4」を種子親とし、えそ斑点病に抵抗性を有する育成固定系統「HM-3」を花粉親として2002年に最初のF1交配を行った。2003年より「空知台交4号」の系統名を付して生産力検定試験, 病害抵抗

性検定試験ならびにえそ斑点病やレース1,2yが発生している産地で地域適応性検定試験を実施し、2005年に優良品種に認定された。

特性概要

1. 胚軸長は「どうだい2号」よりやや短いが「どうだい3号」より長く、胚軸径は「どうだい2号」よりやや細いが「どうだい3号」と同等であり、接ぎ木作業性に問題はない。また、道内主要実とり品種との接ぎ木親和性に問題は認められない。
2. 草勢は穂木品種によりやや変動するが、「どうだい2号」や自根と同等である。両性花着生率・着果率は「どうだい2号」や自根と同等である。開花始, 着果日, 収穫日は穂木品種によりやや変動するが、「どうだい2号」とは同等, 自根に対しては同等から2日程度遅い。成熟日数は「どうだい2号」や自根と同等である。
3. 果実外部・内部品質ともに、「どうだい2号」や自根と同等である。果実の肉質に異常は認められない。
4. 果実肥大性は穂木によりやや変動するが、「どうだ

い2号」や自根とほぼ同等である。収穫果率、良果率が「どうだい2号」や自根と同等からやや高いことから良果収量は同等からやや多い。

5. えそ斑点病に対して「どうだい3号」と同様に抵抗性を有し、発生圃場において穂木の発病を著しく軽減する。つる割病については、レース1,2yに対して「どうだい2号」と同程度のやや強い抵抗性を示し、激発圃場を除き、一般の発生圃場では十分な実用性を有する。レース0, レース2に対しても抵抗性を有する。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は全道のメロン栽培地域で、えそ斑点病およびレース1,2yの発生が確認された圃場または発生の恐れがある圃場とする。ただし、レース1,2y抵抗性は「どうだい2号」と同程度のやや強であるため、「どうだい4号」を導入する際には「メロンつる割病レース1,2y抵抗性台木品種「どうだい2号」導入指針」（平成15年普及奨励事項ならびに指導参考事項、71-72（2003年））に従う。

場所名	品 種 名		接ぎ木 時胚軸 長(mm)	収穫期 草 勢	成 熟 日 数 (日)	規格内 収 量 (kg/a)	平 均 一果重 (kg)	糖 度 (Brix)	つる割病 レース1,2y 発病度	えそ斑点 病発病株 率(%)	試験年次
	台 木	穂 木									
花・野菜 センター	どうだい4号	赤肉キング系	34	3	46	355	2.02	12.8	64	0	2003~ 2004
	どうだい2号		39	3	46	327	1.97	12.6	50	100	
	どうだい3号		26	3	46	336	2.03	12.5	—	0	
	(自根)		—	3	46	325	1.95	12.5	—	—	
	金剛1号		29	—	—	—	—	—	100	100	
	どうだい4号	ルピアレッド		3	52	306	1.72	14.1			
	どうだい2号			3	52	282	1.72	13.9			
	どうだい3号			3	53	313	1.73	14.2			
	(自根)			3	52	321	1.81	14.2			

- 注 1) 収穫期草勢は1(弱)－3(どうだい2号並)－5(強)で評価。
2) つる割病レース1,2y発病度は幼苗検定による結果、0(健全)－100(枯死)。
3) えそ斑点病発病率は幼苗検定による結果。

参照 1) 北海道農政部編, 平成17年普及奨励並びに指導参考事項, 19-20 (2005年)

- (2) どうだい6号(系統名 空知台交6号)2008年
登録番号:(北海道)台木類(メロン)北海道交第5号
(種苗法)第19678号

セールスポイント

えそ斑点病抵抗性を有し、つる割病(レース1,2y)抵抗性が「どうだい4号」より強い。幼苗期に徒長しづらい特性を有しており接ぎ木作業を行いやすい。また、果実肥大性が良好で台木特性が優れる。

来歴 えそ斑点病抵抗性を有し、つる割病(レース1,2y)(以下、レース1,2y)に対する抵抗性が「どうだい4号」より強く、接ぎ木作業性などの台木特性が優れていることを育種目標とした。花・野菜技術センターにおいて育成した両病害抵抗性固定系統「HM-5」を種子親とし、同じく両病害に抵抗性を有する育成固定系統「HM-4」を花粉親として2005年に最初のF1交配を行った。2006年より「空知台交6号」の系統名を付して、生産力検定試験、病害抵抗性検定試験ならびに道内のえそ斑点病やレース1,2yが発生している産地において地域適応性検定

試験を実施し、2008年に優良品種に認定された。

特性概要

- 胚軸長および胚軸径は「どうだい4号」と同等であるため、接ぎ木作業性は同等である。「ワンツーシャット」や「ダブルガード」に比べて徒長しづらく、接ぎ木作業性がやや優れる。
- 草勢は穂木品種によりやや変動するが、「どうだい4号」,「ワンツーシャット」と同等,「ダブルガード」よりやや優れる。両性花着生率と着果率は「どうだい4号」と同等で、開花始と成熟日数も同等である。
- ネット形質は各台木品種と同等である。糖度は穂木品種によりやや変動するが、「どうだい4号」,「ワンツーシャット」と同等,「ダブルガード」よりやや優れる。
- 果実肥大性は穂木品種によりやや変動するが、「ワンツーシャット」よりやや劣り,「どうだい4号」と同等,「ダブルガード」よりやや優れる。収量性は「どうだい4号」,「ワンツーシャット」と同等で,「ダブルガード」よりやや優れる。

5. えそ斑点病に対して「どうだい4号」と同様に抵抗性を有し、発生圃場において穂木の発病を著しく軽減する。つる割病については、レース1,2yに対して「どうだい4号」よりも強い量的抵抗性を示し、甚発生圃場を除き十分な実用性を有する。レース0、レース2に対しても抵抗性を有する。

びレース1,2yの発生が確認された圃場または発生の恐れがある圃場とする。ただし、低温伸長性が「どうだい4号」よりやや劣るため、道北地域の無加温半促成作型のうち、4月上～中旬定植の栽培を避ける。レース1,2yに対する抵抗性は「どうだい4号」より優れるが、菌密度が高いと罹病する場合がある。従来の抵抗性台木でも発病する圃場では土壌還元消毒や輪作を行って菌密度を下げた後に「どうだい6号」を用いる。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は全道のメロン栽培地域で、えそ斑点病およ

場所名	品 種 名		接ぎ木時		収穫期 草 勢	成 熟 日 数 (日)	規 格 内 収 量 (kg/a)	平 均 一 果 重 (kg)	糖 度 (Brix)	つる割病 レース1,2y 発病度	えそ斑点 病発病株 率 (%)	試験年次
	台 木	穂 木	胚軸長 (mm)	胚軸径 (mm)								
花・野菜 センター	どうだい6号	赤肉キング系	31	1.9	2.5	44	361	1.99	13.0	44	0	2006～ 2007
	どうだい4号		32	1.9	3.0	44	372	2.08	12.7	75	0	
	ダブルガード		38	1.9	1.5	44	336	1.85	12.3	36	0	
	ワンツーシャット		46	2.0	2.5	44	373	2.10	12.8	46	0	
	どうだい2号	—	—	—	—	—	—	—	—	57	100	
	どうだい6号	ルピアレッド			2.5	51	329	1.84	14.3			
	どうだい4号				3.0	51	310	1.86	14.6			
	ダブルガード				2.5	51	302	1.79	14.2			
ワンツーシャット				2.5	51	331	1.83	14.3				

- 注 1) 収穫期草勢は1(弱)～3(どうだい4号並)～5(強)で評価。
 2) つる割病レース1,2y発病度は幼苗検定による結果、0(健全)～100(枯死)。
 3) えそ斑点病発病率は幼苗検定による結果。

参照 1) 北海道農政部編、平成20年普及奨励ならびに指導参考事項、16-18(2008年)

4. かぼちゃ

(1) TC2A(系統名 TC2A)2007年

登録番号：(北海道)かぼちゃ北海道第1号
 (農水省)かぼちゃ農林1号
 (種苗法)第17187号
 (商標名)ほっとけ栗たん

1996年に交配して、短節間形質と高乾物率等によって個体選抜を行い、自殖して得られた固定系統である。「BHA」は、「近成芳香」と「錦芳香」との交配から得られた固定系統である。2004年から「TC2A」の系統名で各種試験を行い、2007年に優良品種となった。

セールスポイント

短節間性を有し、摘心・整枝・誘引が不要で、果実が株もとに着果するため、収穫が容易な省力・軽労化向きの良食味かぼちゃ品種である。

来歴 本品種は、(独)農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センターと(株)渡辺採種場の共同研究により、良食味で短節間性を持つことを目標に育成された。花粉親品種「北海1号」(品種登録番号第17188号)と渡辺採種場育成の種子親系統「BHA」を交配して得られた単交配一代雑種である。「北海1号」は、「まさかり」とコーネル大学から導入した「Bush Buttercup」を

特性概要

1. 主枝(親蔓)の、13節前後までは節間が詰まり短節間性の草姿を示す。それ以降の節位は開花期頃から徐々に伸長して普通草姿となる。側枝(子蔓)数は、「えびす」よりも少ない。
2. 雌花と雄花の開花時期は「えびす」、「つるなしやっこ」とほぼ同じである。着果は「えびす」よりも下位節であり、節間が詰まるため株もと近くに着果する。
3. 果実重量は「えびす」並の1.8～2.0kg程度である。密植栽培が可能のため、総収量および規格内収量は「えびす」よりも多い。
4. 果形は果頂部が凸となる心臓形である。果皮色は濃

- 緑で、緑色の縞が入る。また、花痕は小さく、果皮の硬さは「えびす」と同程度である。果肉は橙黄色で、肉厚である。Brixおよび乾物率は「えびす」や「つるなしやっこ」よりも高く、高粉質で、食味が優れる。
5. 側枝の発生が少なく、摘心、整枝・誘引作業が不要である。また、果実が株もと近くに着生するために「えびす」よりも収穫作業が容易である。
6. うどんこ病の発生程度は「えびす」と同程度ある。

栽培適地と奨励態度

全道のかぼちゃ栽培地帯に適する。生育初期の親蔓は短節間性を示し、子蔓の発生が少ない特性をもつ。この特性を利用して親蔓を摘心せずにそのまま伸長させる放任栽培においては、密植により収量性が「えびす」と同等以上となることから、従来の摘心・整枝・誘引の作業は不要である。但し、株もと近くの茎葉が枯れ上がった場合には果実に日焼けが生ずることがある。また、栽培法は2006年指導参考事項「短節間かぼちゃの栽培法」に準じて行う。

場所名	品 種 名	蔓 長		側枝数	着果節位	平均一果重(kg)	果数(果/株)	総収量(kg/a)	収規格量内(kg/a)	果肉厚(mm)	B r i x	乾物率(%)	肉 質	食 味	作業時間			試験年次
		10節(cm)	15節(cm)												摘心	整枝	収穫	
北海道農業研究センター	T C 2 A	18	86	1.8	12.2	2.0	1.3	262	215	29.9	13.4	22.0	粉質	3.9	—	—	—	2004 ～ 2006
	えびす	55	125	4.4	15.6	1.7	2.0	185	155	27.1	10.6	17.2	粘～粉	3.4	—	—	—	
	つるなしやっこ	14	44	1.0	10.5	2.2	1.7	317	241	31.5	9.6	15.9	粘質	2.6	—	—	—	
花・野菜技術センター	T C 2 A	37	145	—	9.1	2.0	1.1	284	262	—	—	—	—	—	—	—	—	2004 ～ 2005
	えびす	121	229	—	10.5	2.3	2.3	288	245	—	—	—	—	—	—	—	—	
	つるなしやっこ	19	83	—	9.4	2.1	1.1	295	245	—	—	—	—	—	—	—	—	
(公財) 道中央農業振興公社	T C 2 A	32	113	3.3	—	1.8	1.0	232	195	30.3	11.1	21.1	粉質	—	0	0	8.8	2005 ～ 2006
	えびす	107	203	5.9	—	1.8	2.1	151	142	26.6	9.0	15.9	粘～粉	—	1.1	1.3	14.8	
	つるなしやっこ	20	73	3.0	—	1.8	1.1	281	250	28.4	9.2	16.7	粘質	—	0	0	10.0	

注 1) 食味評価はパネリスト38名による。5(良)～3(普通)～1(不良)。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成19年普及奨励ならびに指導参考事項, 15-17 (2007).
2) 杉山慶太 等, 北海道農業研究センター研究報告. 190, 1-58 (2009).

5. ながいも

(1) 十勝4号(系統名 十勝4号)2013年

登録番号:(北海道)

(種苗法)

セールスポイント

「十勝4号」は一般に栽培されている「十勝選抜系統」より太く、約20%多収であり、一般栽培上の欠点は認められない。

来歴 「十勝4号」は2005年に北海道立十勝農業試験場(現北海道立総合研究機構十勝農業試験場)において、ながいも「音更選抜系統」(以下音更選抜)の定芽部位を利用して得られた突然変異系統である。2008年にいも径がもっとも太い1系統(「TB0804」)を選抜し、増殖、生産力検定予備試験を経て、2011年から「十勝4号」の系統名で各種試験を行い、2013年に優良品種となった。

特性概要

- 不定芽の形成は「音更選抜」と同等の“良”で、催芽期間は「音更選抜」と同等である。催芽時の腐敗は「音更選抜」とほぼ同等である。
- 草勢、分枝性は、「音更選抜」と同等で、雌雄性は「音更選抜」と同様に雄株である。葉の形状は、「音更選抜」と同じ“長心臓形”であるが、「音更選抜」に比べ、葉長が短く、葉のくぼみがやや浅い。
- 萌芽期は「音更選抜」と同等で、黄変期は3日程度早い。
- ヤマノイモえそモザイク病に対する抵抗性は「音更選抜」と同等の“中”である。
- 規格内収量は「音更選抜」より約20%多収である。
- いもの形状は「音更選抜」と同様の“長楕円形”であるが、いも径が太く、平均1本重が重い。
- いもの乾物率、粘度は「音更選抜」並の品質である。とろろおよび短冊にした場合の食味は、「音更選抜」

並である。とろろの加工適性は「音更選抜」と同等である。

8. 貯蔵性は「音更選抜」と同等の“中”である。

9. 増殖性は「音更選抜」とほぼ同等の“良”と判定される。

場所名	品 種 名	規格内収量 (kg/10a)	同左比 (%)	規 格 内 率 (%)	多数本 いも株率 (%)	全 長 (cm)	調整長 (cm)	いも径 (cm)	平均1本重 (g)	乾物率 (%)	粘度 (Pa/s)	ヤマノイモ えそモザイク 病抵抗性
十勝農試	十勝4号	4,560	116	91.9	15.0	59	41	7.1	1014	16.2	3.4	中
	音更選抜	3,929	100	92.2	15.0	61	42	6.1	876	15.8	3.2	中
	川西選抜	3,988	102	88.9	11.1	62	43	6.4	942	16.0	3.3	—

参照 1) 北海道農政部編, 平成25年普及奨励ならびに指導参考事項, 8-10 (2013年)

6. やまのいも

(1) きたねばり (系統名 十勝3号) 2011年

登録番号: (北海道)

(種苗法)

セールスポイント

「きたねばり」は北海道で栽培されているながいもに比べ、重要病害であるヤマノイモえそモザイク病に強く、短根で、とろろ粘度が高く内部品質が優れている。

来歴 「きたねばり」は2000年に北海道立十勝農業試験場(現北海道立総合研究機構十勝農業試験場)において、いちょういも「No.11」を母、ながいも「音更選抜」を父に人工交配を行った組み合わせから育成された。2005年に形状や収量性から1系統を選抜し、増殖、生産力検定予備試験を経て、2008年から「十勝3号」の系統名で各種試験を行い、2011年に優良品種となった。

特性概要

1. 「音更選抜」に比べ不定芽の形成がやや劣り、1週間程度長い催芽期間を要する。
2. 草勢は「音更選抜」より弱く、分枝は「音更選抜」より少ない。つる径は「音更選抜」より太い。葉の形状は「音更選抜」の「長心臓形」に対し「心臓形」でくびれ部分が少ない。葉色は「音更選抜」より淡く、葉長が長く、葉脚部の窪み深は「音更選抜」より深い。雌雄性は雄株である。むかご着生は「音更選抜」よりやや少ない。

3. 黄変期は「音更選抜」とほぼ同程度である。

4. ヤマノイモえそモザイク病に対する抵抗性は「音更系統」より強い“強”である。

5. 規格内収量は標準的な栽植密度では「音更選抜」と同程度であるが、密植では「音更選抜」よりやや低収となる。多数本いも株率はきわめて低く、1株につき1本のいもが収穫される。

6. いもの形状は「音更選抜」「川西選抜」の「長紡錘形」に対し短根の「紡錘形」である。

7. いもの乾物率は「音更選抜」に比べ5ポイント程度高く、粘度は「音更選抜」より高い。すりおろしたとろろの食味は、粘りが強く食味評価はやや高い。とろろの加工適性は良好である。

8. 「音更選抜」「川西選抜」と同程度の貯蔵性を有する。

9. 増殖性について、むかご着生数は「音更選抜」に比べ少なく、むかごからとれる種いも(1年子いも)は、「音更選抜」よりやや小さい。切片(100g)からは、「音更選抜」とほぼ同程度の大きさの種いもが収穫できる。

栽培適地と奨励態度

十勝及びこれに準ずる地域に適応する。ながいもに比べ不定芽の形成がやや劣り、1週間程度長い催芽期間を要することから、催芽時の腐敗の発生を防止するために適切な管理に努める。

場所名	品 種 名	規格内収量 (kg/10a)	同左比 (%)	規 格 内 率 (%)	多数本 いも株率 (%)	全 長 (cm)	調整長 (cm)	いも径 (cm)	平均1本重 (g)	乾物率 (%)	粘度 (Pa/s)	ヤマノイモ えそモザイク 病抵抗性
十勝農試	きたねばり	4,290	106	92.3	1.0	47	32	8.8	974	21.5	5.4	強
	音更選抜	4,063	100	92.7	19.8	58	39	6.2	873	16.5	3.5	中
	川西選抜	4,033	99	86.8	19.2	57	38	6.6	935	16.7	3.6	中

参照 1) 北海道農政部編, 平成23年普及奨励ならびに指導参考事項, 5-7 (2011年)